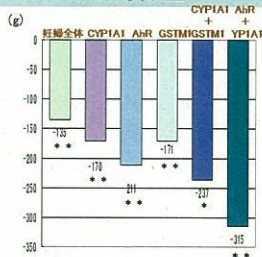
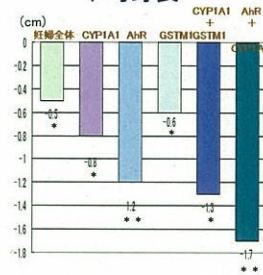


喫煙群の新生児体格と母の遺伝子多型 平均体重



妊婦の年齢、身長・妊娠前体重、妊娠中飲酒量、出産歴、新生児性別、在胎週数、世帯収入で調整 * p<0.05 ** p<0.01

喫煙群の新生児体格と母の遺伝子多型 平均身長



妊婦の年齢、身長・妊娠前体重、妊娠中飲酒量、出産歴、新生児性別、在胎週数、世帯収入で調整 * p<0.05 ** p<0.01

まとめと今後の課題

- 出生前のPCB・ダイオキシン類、PFOS暴露(本日は詳細を省略)など環境要因は胎児期、および乳幼児期の発達へ負の影響を及ぼすことが否定できない結果であった。
 - PCB・ダイオキシン類暴露は妊娠中の栄養状態(葉酸など)や、喫煙、母乳中の栄養素、母乳哺育による知的な刺激、家庭環境のよさが影響を交絡(修飾・拮抗)する可能性がある。
- 従って
1. 次世代影響発現のメカニズムに沿って
 2. 葉酸や母乳など栄養状態の関与
 3. 家庭環境要因の役割、
 4. 喫煙や、水銀、農薬などの複合的な環境要因の影響
 5. 感受性素因を含めて総合的に検討すること、さらに
 6. 子どもの成長を追ってより長期間の縦断的観察を行うことが必須である。

参加されている妊婦さん、子どもさんの多大な協力並びに北海道産婦人科医会、各病院の皆様方の御尽力で本成果が得られていることに深く感謝します

共同研究機関

- 北海道大学医学研究科
産科・生殖医学分野、婦人科学分野、腎泌尿器外科学分野
- 札幌医科大学産婦人科学講座
- 旭川医科大学産婦人科学講座
- 北海道大学獣医学研究科
環境獣医学講座・毒理学分野
- 福岡県保健環境研究所
- 国立水俣病研究センター
- 星薬科大学薬品分析化学講座
- 札幌市立衛生研究所

